

iRMC S5(integrated Remote Management Controller)

ご使用上の留意・注意事項

FUJITSU Server PRIMERGY に搭載されるサーバ監視プロセッサ iRMC S5(integrated Remote Management Controller) に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2023 年 10 月
富士通株式会社

1. HTML5 ビデオリダイレクションでのバーチャルメディア機能について

HTML5 を使用したビデオリダイレクションでは、バーチャルメディア機能でマウント可能なメディアイメージは ISO イメージのみをサポートしています。また同時にマウント可能なメディアは 1 つのみとなります。

その他形式のメディアイメージのマウントや、複数メディアのマウントする場合は、Java 版のビデオリダイレクション(*)をご使用ください。

(*) 設定項目 [Services] メニュー – [Advanced Video Redirection(AVR)] – [HTML5 Viewer]
– [Favor HTML5 Over Java Applet] を“無効”設定にしてビデオリダイレクションを起動します。

2. Java ビデオリダイレクションのソフトウェアキーボードについて

Java 版ビデオリダイレクションのソフトウェアキーボードでは、以下のキーが、ご使用になれません。

- ・ [変換]、[ひらがな/カタカナ]キー
- ・ キーボードショートカット[Alt]+[Print Screen]+"C"

入力した文字を変換する場合は、[スペース]キーをご使用ください。また、[Alt]+[Print Screen]+"C"の同時押しをする場合は、ホットキーメニューで"Alt + Print Screen + C"を登録してご使用ください。

3. iRMC S5 Web インターフェースによる RAID 監視に関する留意事項

システム→外部ストレージ→コントローラの詳細→物理ディスクの詳細 からリビルド等のバックグラウンドタスクの現在の進捗[%]が表示されますが、推定残り時間が表示されません。

推定予測残り時間を確認する必要がある場合は、ServerView RAID Manager をお使いください。

4. iRMC および BIOS の設定情報のバックアップに関する留意事項

通常、保守作業では iRMC および BIOS の設定を引き継ぎますが、万一に備えて、設定情報のバックアップを取得願います。

バックアップの取得、再適用の方法は、「iRMC S5 Web インターフェース」マニュアルの「バックアップリストア」項をご参照ください。

<http://manuals.ts.fujitsu.com/file/13345/irmc-s5-web-interface-jp.pdf>

5. ライフサイクルマネジメントライセンス&モジュール(PYxLCM11)によるアップデート機能に関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 1.18P)

iRMC Web インターフェースの[ツール]-[アップデート]-[オフラインアップデート]機能は、ご使用になれません。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 1.23P 以降で解除済みです。

6. システムレポートのブラウザ表示について

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 全版数)

iRMC Web インターフェースの [ツール] - [レポート] - [システムレポート] - [ブラウザで表示]からシステムレポートを表示する際、Firefox64bit 版を使用すると「タブがクラッシュしてしまいました」と表示され、正常にシステムレポートが表示されません。Firefox64bit 版以外のブラウザをお使いください。

7. iRMC 構成バックアップリストア機能に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 全版数)

iRMC Web インターフェースの [ツール] - [バックアップリストア] - [iRMC 構成バックアップリストア] からご使用可能な iRMC ファームウェア設定の保存機能について、下記の通り不具合修正による仕様変更がございます。

iRMC1.25P 未満の場合 :

バックアップファイル作成後に作成した iRMC ローカルユーザーアカウントがリストア実施後に削除されない不具合があります。

iRMC1.25P 以降の場合 :

バックアップファイル作成後に作成した iRMC ローカルユーザーアカウントがリストア実施後に削除されます。

8. 自己証明書の有効期限を変更した場合について

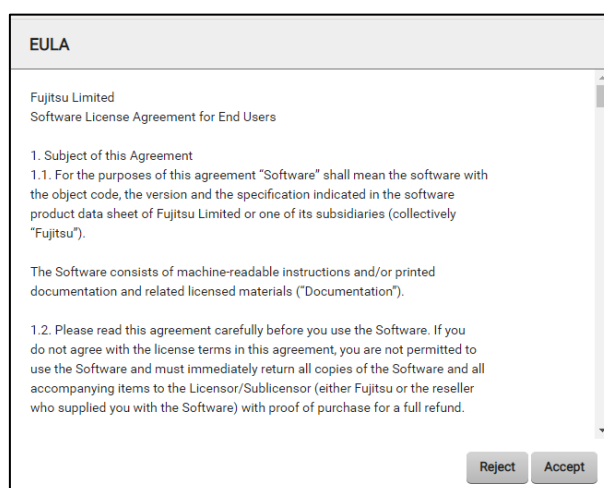
自己証明書の有効期限を変更すると証明書作成エラーが発生します。このため有効期限の変更は行わないようにお願いします。

9. iRMC Web インターフェース初回アクセス時の EULA 表示について

下記の場合において、iRMC Web インターフェースにログイン後、初回に限り EULA(End User License Agreement)が表示されます。[Accept]ボタンを押下した上でご利用願います。

①iRMC1.60P 未満の版数から 1.60P 以降にアップデートした場合

②工場出荷時に iRMC1.60P 以降が適用された装置の iRMC Web インターフェースにアクセスした場合



EULA

Fujitsu Limited
Software License Agreement for End Users

1. Subject of this Agreement

1.1. For the purposes of this agreement "Software" shall mean the software with the object code, the version and the specification indicated in the software product data sheet of Fujitsu Limited or one of its subsidiaries (collectively "Fujitsu").

The Software consists of machine-readable instructions and/or printed documentation and related licensed materials ("Documentation").

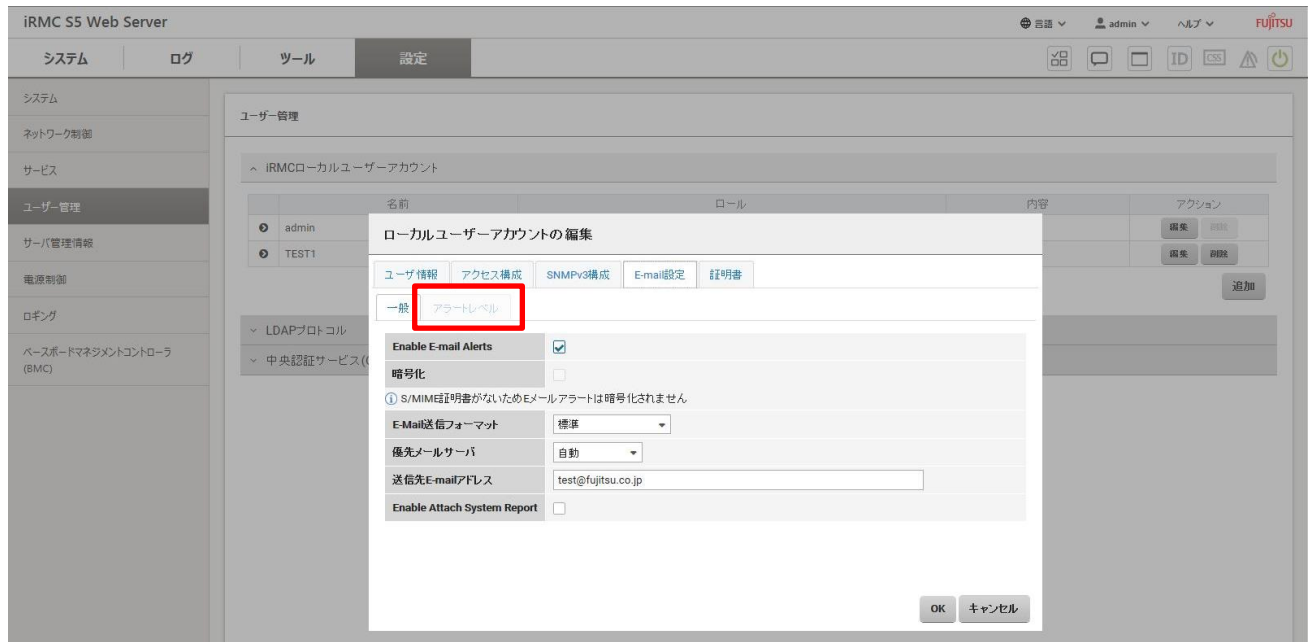
1.2. Please read this agreement carefully before you use the Software. If you do not agree with the license terms in this agreement, you are not permitted to use the Software and must immediately return all copies of the Software and all accompanying items to the Licensor/Sublicensor (either Fujitsu or the reseller who supplied you with the Software) with proof of purchase for a full refund.

Reject Accept

10. Email 警告送信機能のアラートレベル設定について

iRMC1.60P が適用された装置においては、Email 警告送信機能のアラートレベルタブがグレーアウトされるため、アラートレベルの編集が出来ません。

- iRMC 1.60P の場合：アラートレベルのタブ選択不可



- iRMC 1.60P 以外の場合：アラートレベルのタブ選択可能(設定を編集可能)



iRMC1.60P へアップデートした際には、アップデート前のユーザーのアラートレベルの設定は引き継がれますが、iRMC1.60P へアップデート後に既存および新規作成ユーザーのアラートレベルの編集はできません。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 2.20P 以降で解除済みです。

11. iRMC のログインパスワードにおける留意事項について

iRMC のログインパスワードは 16 文字以下の文字列をご使用ください。17 文字以上の文字列を指定した場合、設定の保存は可能ですが実際のログインにはご使用いただけません。

12. キーボードレス運用に関する留意事項 (対象 iRMC ファームウェア版数：全版数)

以下の条件を全て満たす場合、iRMC Web インターフェースの[設定] - [システム] - [ブートオプション] - [POST エラー時の動作]設定項目を“起動停止”に設定しないでください。起動中にシステム停止する場合があります。

- ・キーボードを接続していない
- ・リモートマネジメントコントローラアップグレード(PY*RMC411)またはライフサイクルマネジメントライセンス&モジュール(PY*LCM11)を適用していない

13. iRMC ファームウェアと SAS アレイコントローラの組み合わせに関する留意事項 (対象 iRMC ファームウェア版数：全版数)

iRMC S5 (ファームウェア:全版数) と下記(*1) SAS アレイコントローラカード(ファームウェア 24.16.0-0105 以前)をお使いの構成において、節電状態のホットスペアドライブが通常状態に復帰する際、iRMC S5 ファームウェアからのアクセスによりアレイコントローラのリセットが発生し、再起動処理の間数十秒、アレイコントローラが無応答となることがあります。

*1 対象の SAS アレイコントローラ

PRAID EP400i / PY-SR3C41H, PYBSR3C41H
PRAID EP420i / PY-SR3C42H, PYBSR3C42H
PRAID EP420i / PY-SR3C43H, PYBSR3C43H
PRAID EP420e / PY-SR3PE, PYBSR3PE, PYBSR3PEL, PY-SR3PE2, PYBSR3PE2,
PYBSR3PE2L
PRAID CP400i / PY-SR3FA, PYBSR3FA

ファームウェアの版数確認やアップデートの手順は、SAS アレイコントローラカードのマニュアルやアップデートツール添付の手順書をご覧ください。

詳細な技術情報は「LSI MegaRAID SAS 12G Software Users Guide 追補版」をご覧ください。

14. RAID プロパティバックアップリストア設定に関する制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 2.41P 以前)

iRMC Web インターフェースの[ツール]-[バックアップとリストア]-[RAID プロパティバックアップリストア設定]機能は、ご利用になれません。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 2.42P 以降で解除済みです。

15. SNMP トラップ送信先の設定について (対象 iRMC ファームウェア版数 : 2.45P～2.50P)

iRMC Web インターフェースの[設定]-[SNMP]-[SNMP トラップ送信先]において、IP アドレスに「0」が含まれる送信先（例. 10.0.12.34）は同画面から設定できません。
また、テストトラップ送信機能は、ご使用になれません。

SNMP トラップ送信先に「0」を含む IP アドレスを設定する場合は、下記の手順にて設定してください。

1. iRMC Web インターフェースの[ツール]-[バックアップとリストア]-[iRMC 構成バックアップとリストア]にて「すべて保存」で、iRMC の設定をファイルに保存する。
2. 保存したファイルをテキストエディタで開き、以下のように IP アドレスを記載して保存する。

記載例(SNMP トラップサーバ 1 に **10.0.12.34**、SNMP トラップサーバ 2 に **10.0.12.35** を設定する場合)

```
<!-- "ConfBMCSnmpTrapDestName" -->
<CMD Context="SCCI" OC="ConfigSpace" OE="1413" OI="0" Type="SET">
  <DATA Type="xsd:string">10.0.12.34</DATA>
  <STATUS>0</STATUS>
</CMD>
<CMD Context="SCCI" OC="ConfigSpace" OE="1413" OI="1" Type="SET">
  <DATA Type="xsd:string">10.0.12.35</DATA>
  <STATUS>0</STATUS>
</CMD>
<CMD Context="SCCI" OC="ConfigSpace" OE="1413" OI="2" Type="SET">
  <DATA Type="xsd:string"></DATA>
  <STATUS>0</STATUS>
</CMD>
```

3. iRMC Web インターフェースの[ツール]-[バックアップとリストア]-[iRMC 構成バックアップとリストア]で、2 で保存した設定ファイルをリストアする。

16. ServerView Operations Manager の旧版から直接監視が出来なくなります (対象 iRMC ファームウェア版数 : 2.42P 以降)

条件をすべて満たした場合、ServerView Operations Manager の画面上で以下の表示となり、iRMC を直接監視出来なくなります。

- ・サーバリストで対象のサーバがスパナマーク(マネジメントコントロールモード)となる
- ・シングルシステムビューの各監視項目が監視不可状態となる

条件

- ・PRIMERGY iRMC S5 搭載装置で iRMC FW が 2.42P 以降である
(ファームアップや部品交換により 2.42P 以降となった場合も含まれます)
- ・SVOM から iRMC の IP アドレスを指定した直接監視を行っている
- ・SVOM が V9.01.02 未満を使用している

対処

ServerView Operations Manager を V9.01.02 以降にアップデートしてください。

17. IPv6 環境における Advanced Video Redirection の制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 2.60P)

IPv6 環境での iRMC 2.60P が適用された装置において、Internet Explorer を使用の場合 Advanced Video Redirection の KVM リダイレクションタイプを HTML5 Viewer でご使用ができません。

※回避策

- ・IPv6 接続から IPv4 接続への変更
- ・KVM リダイレクションタイプを HTML5 Viewer から JViewer(Java)への変更
- ・Internet Explorer を使用した接続から Google Chrome、Firefox への変更

18. SSH クライアントにおける留意事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 2.60P 以降)

iRMC ファームウェアのセキュリティ強化を行ったため、

SSH のクライアントが古い場合、iRMC S5 への SSH 接続ができません。

2.50P 以前で使用していた 3 つの暗号化方式は、2.60P 以降では使用していません。

下記 host key algorithms の変更に対応したクライアントをご使用ください。

iRMC S5 版数	host key algorithms
2.50P 以前	- ssh-rsa - rsa-sha2-256 - rsa-sha2-512
2.60P 以降	- ecdsa-sha2-nistp256 - ecdsa-sha2-nistp384 - ecdsa-sha2-nistp512

例 : OpenSSH の場合

OpenSSH 5.7/5.7p1 (2011-01-24)より古い場合は接続できません。

19. 「RAID Card Uncorrectable error」の SEL メッセージに関する留意事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 2.63P~2.66P)

iRMC S5(ファームウェア : 2.63P~2.66P)と下記(*1)アレイコントローラをお使いの構成において、SEL に「RAID Card Uncorrectable error」の Critical のメッセージが誤って記録され、CSS ランプが点滅し、iRMC WebUI にてアレイコントローラのステータスが Failed になります。ServerView RAID Manager で確認したアレイコントローラのステータスが正常である場合は、SEL メッセージの記録は無視してください。

この SEL に起因する CSS ランプ点滅は iRMC 再起動または OS 再起動していただくことで消灯状態に戻ります。

iRMC 再起動方法は、「iRMC S5 Web インターフェース」マニュアルの「iRMC のリポート」項をご参照ください。
<http://manuals.ts.fujitsu.com/file/13345/irmc-s5-web-interface-jp.pdf>

(*1) 対象のアレイコントローラ

PRAID EP520i / PY-SR3C52, PYBSR3C52, PYBSR3C52L

PRAID EP540i / PY-SR3C54, PYBSR3C54, PYBSR3C54L, PY-SR3C55, PYBSR3C55L

PRAID EP540e / PY-SR3C5E, PYBSR3C5E, PYBSR3C5EL

PRAID EP580i / PY-SR3C58, PYBSR3C58, PYBSR3C58L

※本留意事項は以下の対処を実施済みです。

SEL メッセージの Severity を Info への変更およびメッセージを以下のように変更します。

メッセージ : 「RAID Card Data Incorrect」

CX2570M4、CX2570M5、RX2540M5 向け

iRMC ファームウェア版数 : 3.06P

その他の PRIMERGY M4、M5 の機種向け

iRMC ファームウェア版数 : 3.05P

PRIMERGYの安定稼働のための運用方針について以下に情報公開しております。

<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/pdf/20210202/preface1.pdf>

システム安定稼働のため、常に最新モジュールを適用していただくことを推奨いたします。

なお、最新モジュールのダウンロードおよび適用作業は、お客様自身で実施願います(当社作業をご依頼される場合は、有償にて承ります。当社担当営業もしくは販売店までお問い合わせください)。

20. 「iRMC could not read the CPU temperature for a long time」のSEL メッセージに関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.05P 以降)

iRMC S5(ファームウェア : 3.05P以降)が適用された装置において、

SELに「iRMC could not read the CPU temperature for a long time」のMajorのメッセージが、(*1)の操作実行後に誤って記録される場合があります。

このMajor SELによりError LED及びCSS LEDが点灯または点滅することはありません。

iRMC Webインターフェース(*4)またはServerView(*5)より、

CPU温度が正常な値かどうかを確認していただき、

CPU温度が正常な値であることを確認できた場合は、SELメッセージの記録は無視してください。

異常が確認できた場合は、お手数ですが「富士通ハードウェア修理相談センター」または「SupportDesk受付窓口（SupportDeskご契約者さまのみ）」までご連絡ください。

(*1) 該当する操作

BIOS Update

OS Update (*2)

電源操作 (*3)

(*2) OS Updateの例

修正patchの適用

OS Upgrade: Windows Server 2016からWindows Server 2019への更新、

VMWare ESXi 6.5からVMWare ESXi 6.7への更新等

(*3) 電源操作の例

OSシャットダウン、OS再起動、電源ボタンの押下、

iRMC Webインターフェースからの電源オン、電源オフ、電源リセット等

(*4) iRMC WebインターフェースでのCPU温度情報確認方法

iRMC Webインターフェースにログイン後、[システム]-[冷却]-[温度センサ]を確認してください。

(*5) ServerViewでのCPU温度情報確認方法

ServerView Operations Managerユーザインターフェースにログイン後、
メニューバーの[監視]-[サーバリスト]を選択するとサーバリストウィンドウが表示されます。
サーバリストウィンドウ上で対象のサーバを選択すると、シングルシステムビューウィンドウが表示されます。
シングルシステムビューウィンドウの情報/操作タブから、
[シングルステータスビュー]-[環境]-[温度]を確認して下さい。

※本留意事項は以下のiRMCファームウェア版数以降において解除済みです。

RX2530M6、RX2540M6、RX4770M6 向け

iRMC ファームウェア版数：3.31P

CX2550M6、CX2560M6 向け

iRMC ファームウェア版数：3.29P

その他の PRIMERGY M4、M5 の機種向け

iRMC ファームウェア版数：3.34P

21. DNS の有効設定について

(対象 iRMC ファームウェア版数：全版数)

iRMC Web インターフェースの[設定]-[ネットワーク制御]-[DNS]において、
「DNSを有効にする」チェックボックスの状態を変更した場合、
変更内容はiRMCを再起動するまで反映されません。
この設定を変更した際は、[ツール]-[アップデート]-[iRMCアップデート]から、「iRMCのリポート」を押下し、
iRMCの再起動の実施をお願いします。

22. Boot Option の変更に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数：3.24P 以降)

iRMC WebUI から Boot option 設定を変更した後に電源ボタン押下によってサーバの電源を ON にすると、
Boot Option 設定が反映されません。iRMC WebUI から Boot Option 設定した場合は、WebUI からサーバの電源を ON にしてください。RX2530M6、RX2540M6、CX2550M6、CX2560M6 において発生します。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.31P 以降において解除済みです。

23. SNMP に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

iRMC の SNMP に関して、以下の留意事項が存在します。RX2530M6、RX2540M6、CX2550M6、CX2560M6 において発生します。

1. PCI Fatal Uncorrectable Error (PCIe SERR) 発生時に SNMP トラップが発行されないことがあります。PCIe SERR の監視につきましては iRMC SEL/Mail 通報もしくは iRMC の Syslog 通知機能にて実施してください。
2. OS 側の LAN ケーブルを抜き差ししても、Link up や Link down の SNMP トラップが発行されないことがあります。各 LAN port の Link 状態につきましては iRMC WewbUI の System -> Network から確認をしてください。
3. 設定した SNMP の コミュニティ名が iRMC の再起動を行うと設定前のコミュニティ名に戻ってしまうことがあります。コミュニティ名を設定後に再起動した場合はコミュニティ名が再起動前と同じか確認し、戻っている場合には再度設定をしてください。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.31P 以降において解除済みです。

24. RAID 構成時に HDD が故障した場合の CSS LED に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

RAID を構成している HDD を抜いたときや HDD が応答不可の場合、CSS LED が点灯する代わりに、点滅することがあります。CSS LED が点滅したときは、iRMC WebUI から SEL や HDD の状態を確認してください。RX2530M6、RX2540M6 において発生します。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.31P 以降において解除済みです。

25. VNC AVR の解像度に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

VNC AVR 使用時に、解像度の設定が 1680x1050 の場合に VNC AVR 画面に何も表示されません。VNC AVR 使用時は 1680x1050 以外の解像度を設定してください。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.37P 以降において解除済みです。

26. Restful API による iRMC のアカウント変更に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

RestfulAPI で iRMC のユーザ名とパスワードを変更できません。iRMC WebUI もしくは Redfish にて変更をして下さい。RX2530M6、RX2540M6、CX2550M6、CX2560M6 において発生します。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.31P 以降において解除済みです。

27. 消費電力制御機能に関する留意事項

消費電力が設定値を超えた場合にサーバを電源オフする機能がありますが、電源オフにかかる時間が設定時間以上かかります。例えば電源オフまでの時間を 5 分と設定した場合に、実際に電源オフに 8 分以上かかる場合があります。

28. 時刻同期の設定に関する留意事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

IE あるいは Mozilla ブラウザで iRMC WebUI を開き、時刻同期の設定変更を行っても

“Time synchronization failed” と表示され、設定変更に失敗する場合があります。

時刻同期の設定を行う場合は Google Chrome から設定を行ってください。RX2530M6、RX2540M6、CX2550M6、CX2560M6 において発生します。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.31P 以降において解除済みです。

29. CPU IERR 発生時の iRMC System Event Log について (対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

CPU IERR 発生時に、iRMC System Event Log に CPU IERR の SEL が入らない場合があります。CPU IERR 発生時には、「Management Engine: UMA operation error」のログが入るため、本ログ発生時に CPU IERR 発生したことを示します。RX2530M6、RX2540M6、CX2550M6、CX2560M6 において発生します。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.31P 以降において解除済みです。

30. Shared LAN 設定時の留意事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 全版数)

iRMC WebUI など Network Port を Management LAN から Shared LAN に切り替えた際、または Shared LAN 設定時に iRMC の再起動を行った際に、iRMC との LAN 通信ができなくなる場合があります。

上記の操作後に iRMC との LAN 通信ができなくなった場合は、ID LED ボタン長押しにより iRMC の再起動を行い、再度 iRMC との LAN 通信を試みてください。

※ 本留意事項は iRMC ファームウェア 3.39P 以降において解除済みです。

31.SNMP ポート設定に関する制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.37P)

iRMC の SNMP ポートの設定に関して、以下の制限事項が存在します。iRMC ファームウェア版数 3.37P で出荷された製品もしくはシステムボードを iRMC ファームウェア版数 3.37P が適用された保守部品に交換した場合に発生します。

1. iRMC の SNMP 機能を有効にする場合、ポート番号をデフォルト値の 161 のままで、有効に切り替えると、iRMC がリセットを繰り返す不具合が発生します。
ポート番号は 161 以外を指定した上で、SNMP を有効にしてください。
2. 1.の対処を行って SNMP 機能を有効にした場合、設定したポートに加えて 161 ポートもデフォルトの SNMP ポートとして使用可能になります（指定したポート以外に常に 161 ポートが有効になっていることにご注意ください）。

※ お客様環境にて iRMCファームウェアを 3.37Pにアップデートした環境については対象外です。

※ 本制限事項は iRMC ファームウェア 3.39P 以降において解除済みです。

32.論理ドライブアクセスモード変更時の制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.05P 以降)

対象の iRMC と下記(*1)アレイコントローラをお使いの構成で論理ドライブのアクセスモードを変更した際に、iRMC webUI に「データのセーブが失敗しました」というエラーメッセージが誤って表示される場合があります。変更はアレイコントローラに正常に通知されており、アレイコントローラ再起動後に変更が反映されます。アレイコントローラ再起動後に設定が反映される動作はアレイコントローラの仕様変更によるもので iRMC 制限解除後も変わりません。

(*1)

Package version 51.15.0-3997 以降が適用された以下の製品

PRAID EP520i / PY-SR3C52, PYBSR3C52, PYBSR3C52L

PRAID EP540i / PY-SR3C54, PYBSR3C54, PYBSR3C54L, PY-SR3C55, PYBSR3C55L

PRAID EP580i / PY-SR3C58, PYBSR3C58, PYBSR3C58L

PRAID EP540e / PY-SR3C5E, PYBSR3C5E, PYBSR3C5EL

SAS アレイコントローラカード(PRAID CP500i)

Package version 52.15.0-4045 以降が適用された以下の製品

SAS アレイコントローラカード(PRAID EP680i)

SAS アレイコントローラカード(PRAID EP680e)

※本制限事項の解除については以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.56P

公開時期 : 2023 年 11 月予定

33.Internet Explorer 使用に関する留意事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 全版数)

Microsoft 社の Internet Explorer(以下 IE)サポート終了に伴い iRMC の IE 及び Edge の IE モードサポートを 2022 年 6 月 16 日(日本時間)をもって終了いたします。サポート終了後は、Edge もしくは他のサポートブラウザをご使用ください。

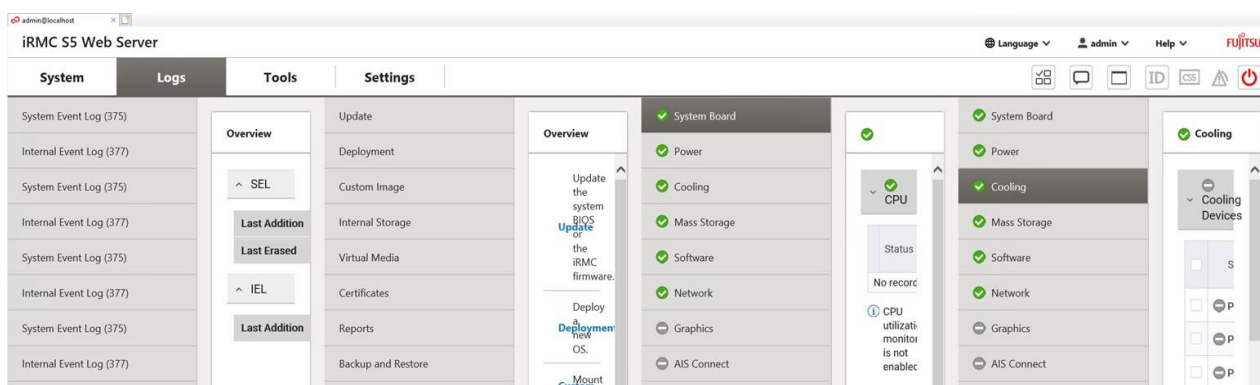
34. Internet Explorer 使用時の制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.37P)

Internet Explorer(以下 IE)もしくは Edge の IE モードを使用して iRMC WebUI にアクセスする場合に、以下の事象が発生する場合があります。

1. 画面表示が崩れる
2. HTTP で iRMCWebUI にアクセス後 HTTPS リダイレクトが正常に動作しない。

(対策)

Internet Explorer は未サポートブラウザのため、他のサポートブラウザをご使用頂くようお願いいたします。



35. SimpleUpdate OnReset オプション使用時の留意事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.36P 以降)

iRMC ファームアップを SimpleUpdate の OnReset オプションで実行した場合、iRMC 再起動後 Redfish タスクが「実行待ち」状態のまま残る場合があります。

iRMC WebUI の「システム」 - 「動作中の iRMC ファームウェア」画面で iRMC が適切にアップデートされていることを確認の上、タスクマネージャダイアログボックスより手動で Redfish タスクを消去いただくようお願いいたします。

※ ※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.50P 以降において解除済みです。

36. Windows Intel® VROC SATA StartBGI 使用時の制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.03P 以降)

対象の iRMC と Windows Intel® VROC SATA をお使いの構成で iRMC webUI から論理ドライブに対して StartBGI を実行すると、その後の画面遷移で iRMC webUI が読み込み中のままになり、遷移が完了しなくなります。

表示されているボタンは通常通り使用いただけます。

※回避策

ServerView RAID Manager を使用して、StartBGI を実施いただくようお願いいたします。

※復旧方法

iRMC webUI「システム」 - 「動作中の iRMC ファームウェア」画面の「iRMC のリブート」ボタンより iRMC を再起動してください。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.39P 以降において解除済みです。

37. CreateVolume RAID10、50、60 論理ドライブ作成時の制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.03P 以降)

対象の iRMC と下記(*1)ストレージコントローラをお使いの構成で iRMC webUI から RAID10、50、60 の論理ドライブを作成できません。

(*1)

PRAID EP520i / PY-SR3C52, PYBSR3C52, PYBSR3C52L

PRAID EP540i / PY-SR3C54, PYBSR3C54, PYBSR3C54L, PY-SR3C55, PYBSR3C55L

PRAID EP580i / PY-SR3C58, PYBSR3C58, PYBSR3C58L

PRAID EP540e / PY-SR3C5E, PYBSR3C5E, PYBSR3C5EL

SAS アレイコントローラカード(PRAID EP680i)

SAS アレイコントローラカード(PRAID EP680e)

SAS アレイコントローラカード(PRAID CP500i)

SAS コントローラカード(PSAS CP2100-8i)

Intel® VROC

※回避策

HII Configuration Utility または ServerView RAID Manager を使用して、論理ドライブを作成いただくようお願いいたします。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.41P 以降において解除済みです。

38. Web インターフェースへのログインに失敗した場合の SNMP トラップについて

Web インターフェースへのログインに失敗した場合、SNMP トラップ (specific:13135878) が発行されますが、以下の機種の特定期数未達の iRMC ファームウェアでは、この SNMP トラップは発行されません。

RX4770 M6 向け

iRMC ファームウェア版数 : 3.31P 未満

PRIMERGY M4、M5 向け

iRMC ファームウェア版数 : 3.34P 未満

39.論理ドライブ作成時の SSD OPO option についての留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.45P 以降)

対象の iRMC と下記(*1)ストレージコントローラをお使いの構成で iRMC から SSD OPO option を有効にした論理ドライブを作成いただけません。

ServerView RAID Manager 及び、HII Configuration Utility より SSD OPO option を有効にして論理ドライブを作成した場合、論理ドライブ初期化処理中、一時的にストレージコントローラが無応答状態となり、iRMC から情報取得及び操作を実施できなくなります。

初期化処理が完了すると復旧し、通常通りご使用いただけるようになります。

この時物理ドライブの抜去を通知する SEL(*2)が誤って記録されますが、復旧後 iRMC webUI をご確認ください対象の物理ドライブが認識されていれば無視していただいても問題ありません。

(*1)SAS コントローラカード(PSAS CP2100-8i)

(*2)エラーID: 0x1B00B5

SEL メッセージ : 「RAID controller %1: Physical disk in slot %2 removed」

40.PSAS CP2100-8i ご使用時の留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.45P 以降)

対象の iRMC と下記(*1)ストレージコントローラをお使いの構成で、サーバ電源が ON の状態で特定の操作(*2)を合計 8 回以上行くと iRMC から下記(*1)ストレージコントローラにアクセスできなくなり、外部記憶装置画面に情報表示されなくなります。

(*1) SAS コントローラカード(PSAS CP2100-8i)

(*2)

①iRMC 再起動

②「MCTP 有効化」設定変更

「設定」 - 「システム」 - 「マネジメントプロトコルオプション」 - 「MCTP 有効化」

※復旧方法

サーバ電源 OFF/ON

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.49P 以降において解除済みです。

41. Intel® VROC のスケジュール機能に関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.03P 以降)

対象の iRMC と Intel® VROC をお使いの構成で Start MDC のスケジュール機能をご使用いただけません。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.42P 以降において解除済みです。

42. ストレージコントローラーにおける論理ドライブの操作に関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 全版数)

下記(*1)ストレージコントローラをお使いの構成で iRMC から論理ドライブの操作(*2)ができません。

(*1)

SAS アレイコントローラカード(PRAID EP680i)

SAS アレイコントローラカード(PRAID EP680e)

SAS アレイコントローラカード(PRAID EP640i)

(*2)

論理ドライブの削除

MDC の開始 / 一時停止 / 再開 / キャンセル

論理ドライブのマイグレーション

OCE の開始

初期化の開始 / 中止

BGI の中止 / 一時停止 / 再開

論理ドライブのプロパティ設定

※回避策

HII Configuration Utility または ServerView RAID Manager を使用して、論理ドライブを操作していただくようお願いいたします。

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.49P 以降において解除済みです。

43.SSD 寿命監視に関する制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数：全版数)

SSD の寿命の閾値超え、及び寿命に到達した場合、iRMC の SEL 出力及び、SNMP トラップ通知は行われません。各 SSD の寿命状態につきましては iRMC WewbUI の [システム]-[外部記憶装置] から確認をしてください。

※回避策

ServerView RAID Manager を使用して、SSD を監視していただくようお願いいたします。

※本制限事項の解除については以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数：3.58P

公開時期：2024 年 10 月予定

44.HTML5 ビデオリダイレクションで Chrome および Edge 使用に関する留意事項

Chrome バージョン 100 以前もしくは Edge バージョン 100 以前を使用して HTML5 ビデオリダイレクションに接続した場合に、画面がゆがむ事象が発生する場合があります。

(対策)

Chrome バージョン 101 以降、もしくは Edge バージョン 101 以降もしくは、Firefox をご使用頂くようお願いいたします。



45. LAN カード(Intel E810 シリーズ)の温度監視に関する制限事項 (対象 iRMC ファームウェア版数 : 全版数)

下記(*1)LAN カードをお使いの構成で、LAN カードのファームウェア NVM 3.20 以降が適用されている場合、下記 LAN カードの温度監視が行われず、以下に対象 LAN カードの温度情報が表示されません。

iRMC WebUI「システム」-「ネットワーク」画面

また、LAN カードの温度に応じた適切な冷却制御が実施できないため、LAN カードの負荷が高い等の理由で、温度上昇が継続すると LAN カードが Thermal 異常で動作を停止(リンクダウン)する場合があります。その場合、OS のログに Thermal 異常を示すドライバのメッセージが記録されます。(復旧には装置の再起動が必要です。)

(*1)

PLAN EP E810-XXVDA2 2X 25G SFP28 PCIe / PY-LA402, PYBLA402, PYBLA402L, PYBLA402L2, PY-LA402N, PYBLA402LN

PLAN EP E810-XXVDA2 2X 25G SFP28 OCPv3 / PY-LA402U, PYBLA402U, PY-LA402U2, PYBLA402U2, PYBLA402U3, PY-LA402UN, PYBLA402UN

PLAN EP E810-QCDA2 2X 100G QSFP28 PCIe / PY-LA432, PYBLA432, PYBLA432L, PYBLA432L2

PLAN EP E810-QCDA2 2X 100G QSFP28 OCPv3 / PY-LA432U, PYBLA432U, PY-LA432U2, PYBLA432U2, PYBLA432U3

PLAN EP E810-XXVDA4 4X 25G SFP28 PCIe / PY-LA404, PYBLA404, PYBLA404L, PYBLA404L2

PLAN EP E810-XXVDA4 4X 25G SFP28 OCPv3 / PY-LA404U, PYBLA404U, PY-LA404U2, PYBLA404U2, PYBLA404U3

※回避策

LAN カードのファームウェアを NVM 3.20 以降にアップデートしないでください。

または、Thermal 異常による LAN カードの動作が停止する事象が発生する場合は、BIOS メニューから FAN を高回転に設定してください。

BIOS セットアップ > (Server) Management > Fan Control : Auto → Full

※本制限事項は iRMC ファームウェア 3.49P 以降において解除済みです。

46.「消費電力スケジュール設定」に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 2.66P 以前)

iRMC webUI の[設定] - [電源制御] - [消費電力制御] - [消費電力スケジュール設定]でスケジュールモードを「無効」に設定した状態で、iRMC を 3.00P 版以降にアップデートした場合、“データのセーブが失敗しました”とメッセージが表示され、[消費電力スケジュール設定]を変更できない場合があります。

以下手順を実施いただくことで[消費電力スケジュール設定]を変更いただけます。

1. 「電力制御モード」を「スケジュール」に設定する。
2. すべてのスケジュールモードを「省電力操作」に設定し、「適用」ボタンをクリック。
3. 設定したい値を各スケジュールモードに設定し、「適用」ボタンをクリック。

※iRMC3.00P 以降ではスケジュールモードが「無効」に設定されている場合でも、「OS によるコントロール」と表示されます。設定値を確認したい場合は、[ツール] - [レポート] - [富士通技術サポート向け]よりログを取得し、iRMC_CSV.txt の内容をご確認ください。設定値が 0 の場合、「無効」が設定されています。

・取得例

0x1A04 : PowerControlScheduleMode1:

[0] (1): 0x00 = 0
[1] (1): 0x00 = 0
[2] (1): 0x00 = 0
[3] (1): 0x02 = 2
[4] (1): 0x00 = 0
[5] (1): 0x00 = 0
[6] (1): 0x00 = 0

0x1A05 : PowerControlScheduleMode2:

[0] (1): 0x00 = 0
[1] (1): 0x00 = 0
[2] (1): 0x00 = 0
[3] (1): 0x00 = 0
[4] (1): 0x00 = 0
[5] (1): 0x00 = 0
[6] (1): 0x00 = 0

47.iRMC ファームウェアアップデートに関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数：全版数)

本項は以下条件で iRMC ファームウェアをアップデートする場合の留意事項です。

条件 1．iRMC ファームウェア版数を 3.34P 以前から 3.37P 以降へアップデート

条件 2．DNS が有効

上記条件で iRMC ファームウェアをアップデートした場合、アップデートした iRMC ファームウェアの起動処理に時間がかかるため iRMC ファームウェアが再起動を繰り返し、アップデートしていない iRMC ファームウェアで起動することがあります。なお、ブートバージョンが異なる iRMC ファームウェアへアップデートする場合は両面アップデートされ、iRMC ファームウェアが起動しなくなることがあります。

これを回避するため、以下手順で DNS を無効にした後に iRMC ファームウェアのアップデートを実施し、アップデートした iRMC ファームウェア起動後に DNS を有効に戻してください。

手順 1．iRMC webUI の[設定] - [ネットワーク制御] - [DNS]の[DNS を有効にする]のチェックを外す

手順 2．「適用」ボタンをクリック

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

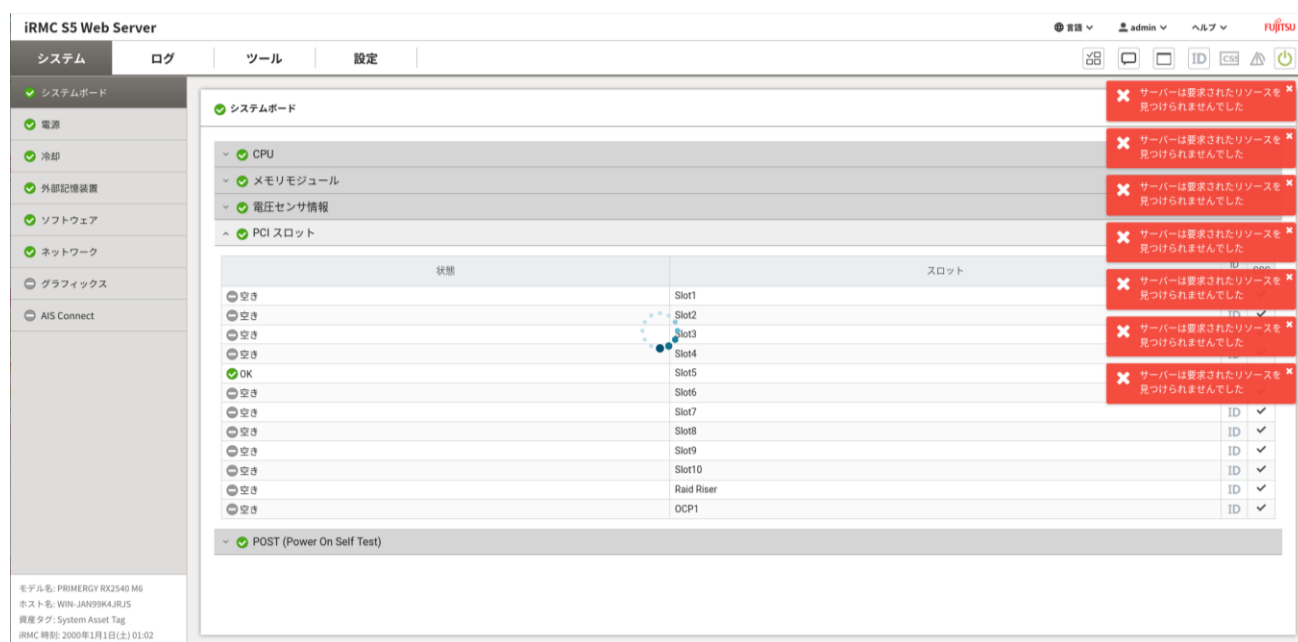
iRMC ファームウェア版数：3.56P

公開時期：2023 年 11 月

48. サーバ電源 ON 時のエラーメッセージに関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 全版数)

「システムボード」画面を開いた状態でサーバ電源 OFF/ON をすると「サーバーは要求されたリソースを見つけられませんでした」のエラーメッセージが複数表示されます。このメッセージは電源 ON 時に iRMC 内部の PCI スロット情報が初期化され、一時的に情報取得できなくなるため表示されるものであり、装置やハードウェアの故障・異常を示唆するものではありません。無視していただいて問題ありません。



※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.57P

公開時期 : 2024 年上期

49. セキュリティプロトコルに関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.54P)

iRMC ファームウェア版数 3.54P で出荷された装置において、iRMC webUI の[設定] – [サービス] – [Web アクセス]にて、以下の2か所のチェックボックスが外れていますが、実際には両方とも有効な設定となり、TLS 1.1 および TLS 1.2 で iRMC と通信が可能です。

- TLS 1.1 を有効にする。
- TLS 1.2 を有効にする。

TLS 1.1 または TLS 1.2 の片方のみを有効に設定する場合は、有効にする TLS のチェックボックスを選択して「適用ボタン」をクリックしてください。

The screenshot shows the 'iRMC S5 Web Server' interface. The 'Service' tab is selected, and the 'Web Access' section is expanded. The 'Network Port' section shows 'HTTP Port' as 80 and 'HTTPS Port' as 443. The 'HTTPS Usage' section has a checkbox for 'HTTPS connection only' which is unchecked. The 'Security Protocol' section has checkboxes for 'TLS 1.1' and 'TLS 1.2', both of which are checked. A note below these checkboxes states: '① At least one security protocol must be enabled. If both are disabled, TLS 1.1 will be enabled by default.' The 'Session Timeout' is set to 300 seconds. At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons.

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.56P

公開時期 : 2023 年 11 月

50. iRMC ファン制御に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 全版数/RX4770M6)

RX4770M6 装置において、下記のカードが搭載されている場合ファンの回転数(約 8000rpm)が高い状態でのファン制御となります。さらに冷却が必要な場合においてもファン回転数をさらに上げることは可能であり、この状態における装置冷却への影響はありません。

対象カード : SAS コントローラカード(PSAS CP503i)

※本留意事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.56P(ファン制御の最適化)

公開時期 : 2023 年 11 月

51. Bonding 制御に関する留意

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.54P 以前)

OCF を搭載する装置において、Bonding 機能を有効にした場合、マネージメント LAN に通信障害があっても OCF の共有 LAN への切り替えが動作せず iRMC に接続できない場合があります。

これを回避する為、Bonding 機能を無効にした後、OCF の共有 LAN を 1 度有効にしてから Bonding 機能を有効にしてください。

共有 LAN の設定は iRMC webUI の[設定]－[ネットワーク制御]－[ネットワークインターフェース]よりネットワークインターフェースポートを[共有 LAN1]を選択してください。

対象装置 : RX2530M6/RX2540M6/RX4770M4/RX4770M5/RX4770M6

※本留意事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.56P

公開時期 : 2023 年 11 月

52. ストレージコントローラのスケジュール設定に関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

ストレージコントローラに対するタスク(パトロールリードまたは MDC)のスケジュール設定で、[曜日]、[週毎]、[月毎]を指定した場合、スケジュールが動作しません。

※回避方法 : ストレージコントローラのスケジュールを設定する場合は、[曜日]、[週毎]、[月毎]を指定せずに、[実行間隔]と[開始時間]のみ指定してください。

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.56P

公開時期 : 2023 年 11 月

53.ストレージコントローラの表示に関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

iRMC WebUI [外部記憶装置] を操作中に、ストレージコントローラが表示されなくなる場合があります。

※回避方法 : F5 キーによる再読み込み、または他画面に遷移後に再度表示することで、ストレージコントローラの表示が可能となります。

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.57P

公開時期 : 2024 年 1 月

54.ストレージコントローラのスケジュール設定(日付指定)に関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

ストレージコントローラに対するタスク(パトロールリードまたは MDC)のスケジュール設定で、存在しない日付を指定した場合、正しくスケジュールが動作しません。

例 : 1 月の時点で、[実行間隔]に、ひと月毎を指定し、[日付]に 31 日を指定すると、1 月のスケジュールは正しく動作しますが、2 月のスケジュールが動作せず、以降のスケジュールが正しく動作しなくなります。

※回避方法 : 古いスケジュールを削除し、再度スケジュール設定を行ってください。

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.57P

公開時期 : 2024 年 1 月

55. ストレージコントローラのスケジュール設定(開始日の指定)に関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

ストレージコントローラに対するタスク(パトロールリードまたは MDC)のスケジュール設定で、[開始時間]に[開始日を指定]を選択した場合、日付と時刻が入力可能となりますが、[実行間隔]、[曜日]、[週毎]、[日付]、[月毎]によって指定された時刻になると、[開始時間]で指定した日付よりも前にスケジュールが実行される場合があります。

例 1 : 1 月 1 日(月)の時点で、[実行間隔]を 1 週、[曜日]を土曜に指定した場合、[開始時間]を 2 月 10 日(土) 12:30 に指定しても、1 月 6 日(土)の 12:30 になると、スケジュールが実行されます。さらに次の実行は 1 月 13 日(土)の 12:30 にスケジュールされます。

例 2 : 1 月 1 日の時点で、[実行間隔]を 1 カ月、[日付]を 10 日に指定した場合、[開始時間]を 2 月 10 日 12:30 に指定しても、1 月 10 日の 12:30 になると、スケジュール実行されます。さらに次の実行は 2 月 10 日の 12:30 にスケジュールされます。

※回避方法 : 指定した開始日までスケジュールを実行したくない場合は、開始日の直前にスケジュール設定を行ってください。スケジュールが実行されてしまった場合は、[外部記憶装置]の[パトロールリードの中止]および、[MDC のキャンセル]で処理を停止してください。

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.57P

公開時期 : 2024 年 1 月

56. Syslog の暗号化設定に関する留意事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.56P 以降)

iRMC WebUI から Syslog メッセージの暗号化が利用可能です。Syslog メッセージの暗号化するには、事前に iRMC WebUI から CA 証明書の Upload が必要です。WebUI から CA 証明書の Upload 後に、Syslog 設定を有効に変更してください。iRMC WebUI において CA 証明書の Upload 方法について、「iRMC S5 Web インターフェース」マニュアルや「コンフィグレーションとメンテナンス」を参照ください。(Syslog の「イベント転送を有効にする」と「暗号化を有効にする」設定の初期設定は両方とも「無効」設定です。)

57. SSO ログイン時の AVR 利用における制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.24P 以降)

iRMC WebUI に SSO でログインしたときに AVR を利用すると、AVR のセッション情報が正しく表示されず、AVR の操作自体も効かなくなる場合があります。

※回避方法 : SSO ログインではなく通常のログインを行って AVR を利用することで、AVR のセッション情報が正しく表示され、AVR の操作自体も効くようになります。

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.57P

公開時期 : 2024 年 1 月

58. SimpleUpdate OnReset オプション及び Online Update 使用時の BIOS アップデートに関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.54P 以降)

SimpleUpdate で OnReset オプションを指定、または Online Update で BIOS アップデートを実行した場合、BIOS POST 中に装置電源がオフになり BIOS アップデートが実行されない場合があります。

※回避方法 : iRMC WebUI から装置電源をオンにすることで、BIOS アップデートを実行可能です。

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.57P

公開時期 : 2024 年 1 月

59. Intel® VROC 論理ドライブ名の変更に関する制限事項

(対象 iRMC ファームウェア版数 : 3.54P 以降)

対象の iRMC と Intel® VROC をお使いの構成で iRMC WebUI で編集ボタンが有効にならず、論理ドライブ名を変更できない場合があります。

※回避方法 : HII Configuration Utility または ServerView RAID Manager を使用して、論理ドライブ名を変更いただくようお願いいたします。

※本制限事項の解除時期は以下を予定しています。

iRMC ファームウェア版数 : 3.57P

公開時期 : 2024 年 1 月

以上